

会議名	シンポジウム「人と牛のふれあい —自然・生活体験への誘い—」
開催日時	平成17年2月1日(火) 13:00~17:00
開催場所	東京農業大学百周年記念講堂(東京都世田谷区桜ヶ丘)
主催者	㊤日本草地畜産種子協会
参加人数(概数)	約700名。畜産関係団体・事業(ふれあい牧場)関係者が主体。
1. 会議の概要 (500~1,000字程度または議事内容の資料添付)	<p>開催趣旨</p> <p>安心・安全な国産畜産物生産のため、大家畜については自給飼料による生産構造が重要と考えられ、草地の景観活用の都市住民との交流、学校生徒の体験学習の場としても適しているように考えられる。そのあり方や発展方向についての意見の交換を行う。</p> <p>メインテーマ;「人と牛のふれあい—自然・生活体験への誘い—」</p> <p>1. 特別基調講演;「あなたの遺伝子が目覚めるとき」 村上和雄(筑波大名誉教授)</p> <p>後に続く事例報告の序論として、医学⇒農学(イネ)の遺伝子解読に指導的役割を發揮してきた同教授が、標題著書の編序に従いさらに、環境で遺伝子が変わる、遺伝子ONにして生きる、この生命設計図の不思議、誰が生命の暗号を書いたのか、についてわかり易く話された。</p> <p>つまり人が牛と触れ合うことにより次項2.の事例報告に関連する遺伝子を目覚めさせ、働かせる引き金になる、ということである。</p> <p>2. 事例報告</p> <p>(1)「公共牧場の運営と牧場体験」中村哲雄(岩手県葛巻町長)</p> <p>葛巻町の概要・PRからはじまり、報告者の経歴と実践、公共牧場、牧場の物づくり・人間教育、について話された。</p> <p>公共牧場くずまき高原牧場は、1,800㍊の牧草地を利用した畜産の推進、事業拡大による地域経済の活性化、雇用確保による若者の定着に貢献している。</p> <p>牧場体験は受け入れ側にメッセージがあること、受け入れ側にも多くの得るものがあり、人、物、文化的交流が生まれ、地域活性化に繋がると結んだ。</p> <p>(2)「牛飼いと地域社会」中島邦造(なかとみ牧場経営者)</p> <p>報告者は朝霧高原で、放牧形態を取り入れた約百頭規模の家族経営酪農を二代目とともに営み、地域の指導者と活動している。その酪農経営における牛と人の関係、酪農と体験学習、草地畜産を支援してもらったための活動対象、などについて経営哲学を述べられた。</p>

	<p>(3) 「“いのち”を感じる体験学習」</p> <p>三好直子 (社)日本ネイチャーゲーム協会指導者養成委員)</p> <p>ネイチャーゲームとはいかなるものかの説明、人を育てる自然体験学習の場としての題材が豊富な牧場に期待するもの、について話された。</p> <p>3. パネルディスカッション</p> <p>コーディネーター：広瀬利通 (NPO 法人ホールアース代表理事)</p> <p>このシンポジウムが草地畜産種子協会の事業の総括として開催されたことが紹介され、報告者の補足発言の後、会場からの発言等も交えて、人と牛のふれあいにおける両方面の安全問題、地域の人の引き入れ、人材の確保、などの点について討論が行われた。</p>
<p>2. 今後の研究開発分野として重要と思われる関連発表</p>	
<p>3. その他の発表課題で関心のあったもの</p>	
<p>4. 今後研究開発課題採択に当たって参考とすべき事項等</p>	<p>畜産物の消費拡大に繋がる消費者教育、消費者への情報提供に関わる社会科学領域の研究課題。</p>
<p>報告者</p>	<p>針生 程吉</p>